

9) ムシガレイ資源調査

倉長 亮二

目的

本県小型底びき網漁業の漁獲対象魚種のうち、近年重要性が増しているムシガレイを対象に、資源状況及び生態についての基礎資料を収集し、適正な資源利用を目指す。

方法

- ①本県小型底びき網漁業の基地である賀露（鳥取県漁業協同組合本所）および境港（鳥取県漁業協同組合境港支所）の漁獲量を集計することにより、漁獲動向を把握した。
- ②水揚げされた漁獲物について、毎月1回の市場調査を行い、各銘柄の体長、体重、性別、胃内容物、生殖腺重量などを測定した。

結果

- ①2005年の鳥取県の小型底引き網の魚種別漁獲量、金額を図1に示した。ムシガレイの漁獲量は34.2tで、総漁獲量の約10%で、単一魚種としてはバケメイタと並び最も漁獲量の多い魚種となっていた。一方、漁獲金額では2,700万円と総漁獲金額の約10%であり、バケメイタ、ヒラメに次ぐ重要魚種となっていた。

次に主要港（田後、賀露、境港）での2005年の月別漁獲量を図2に示した。漁獲が最も多いのは賀露で約25t、ついで田後が5tであり、両者は6月に漁獲が始まり、7月にピークを迎え、10月にはほぼ

漁期を終えていた。一方、境港は前述の2港とやや異なり、ほとんど5月と6月のみで漁期を終えている。

- ②鳥取県におけるムシガレイの雌雄別体長組成を図3に示した。体長組成は、船ごとに銘柄別体長組成を求め、これに測定した船の銘柄別漁獲量を掛けてその船の体長別漁獲尾数とし、これを月別に1隻あるいは数隻分足しあわせてその月の体長組成とした。2005年については5月は水揚げのまとまった境港、6月から8月までは漁獲の多かった賀露で市場調査を行い、組成を求めた。5月は全長23cm及び27cm付近にモードが見られたが、6月の賀露の調査では全長20cm付近にモードが見られ、別の群れ（年級）を漁獲していた。また、7月、8月になると操業水深も深くなり、全長30cm前後の大型個体も水揚げされるようになる。

次に、市場調査及び水揚げ台帳の集計から、賀露における2005年6月から8月の各月、各銘柄の平均全長と平均単価を求め、全長と単価の関係を図4に示した。銘柄「大」にあたる全長30cmを超える個体では1,600円/kgから1,700円/kgであるが、体長が小さくなるに従い単価は直線的に下降しており、最小銘柄となる全長約18cmの「がり」では約320円/kgまで下落していることが判った。

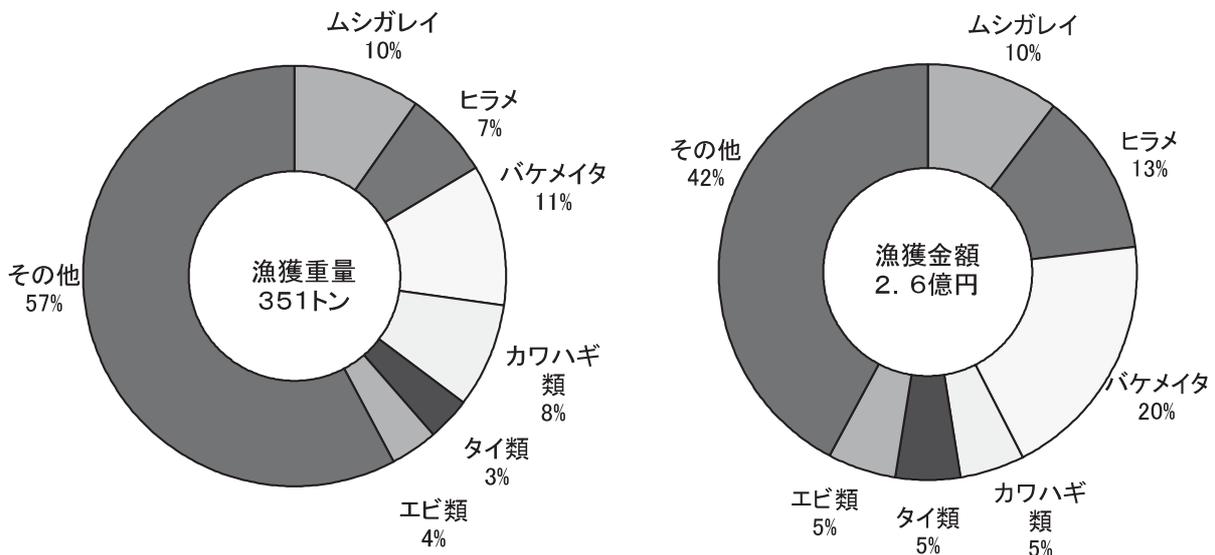


図1 鳥取県の小型底引き網の漁獲量と金額

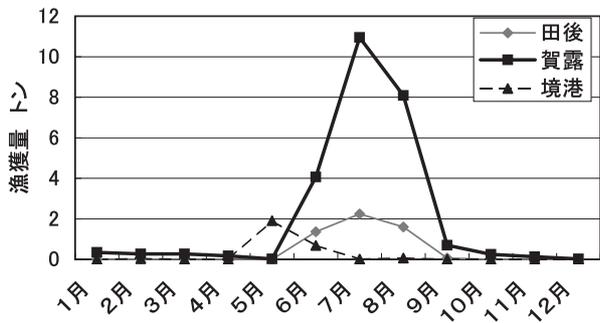


図2 ムシガレイの月別漁獲量

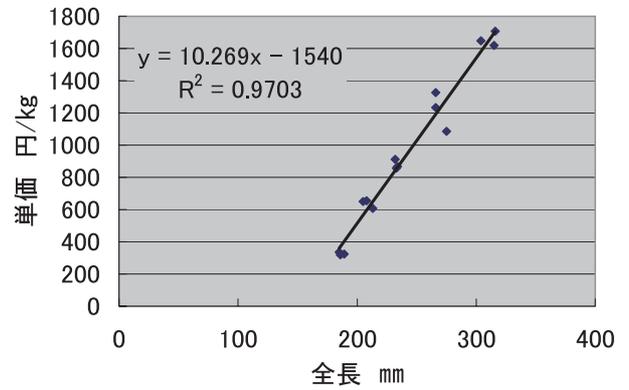


図4 全長と単価の関係

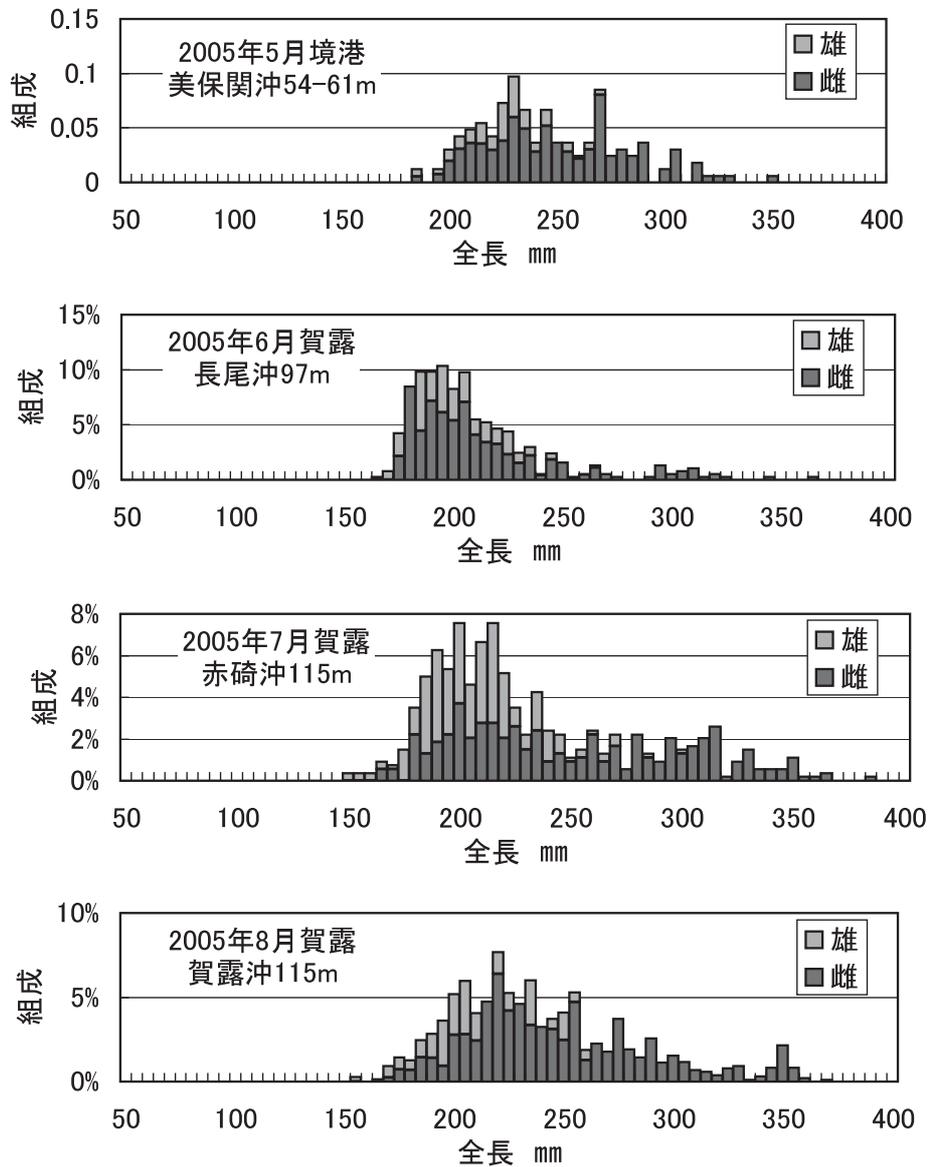


図3 月別体長組成